



Handwritten Japanese characters on a vertical paper label, likely a title or author name. The characters are arranged vertically and appear to be: 藤 村 集 巻 九

~ 5
2320
1



門 利
號 2620
卷 1



物種を問

とあやうし初鳥

卓文

安き命とせむくハ

あつ小舟か

白燕

るんせり

こんちりあや

灯くせり

溪岸

雲くつ山あひ白ふ

梅枝くり雪あひ

ききとあひ

有庸



明治四十一年六月十一日
市島館長 氏奇贈

まやまのりきるとあうり松の声

妻菱

雪う解や梅あしとくし解理層

松下 希成

錦もあしはる層あつるに十日

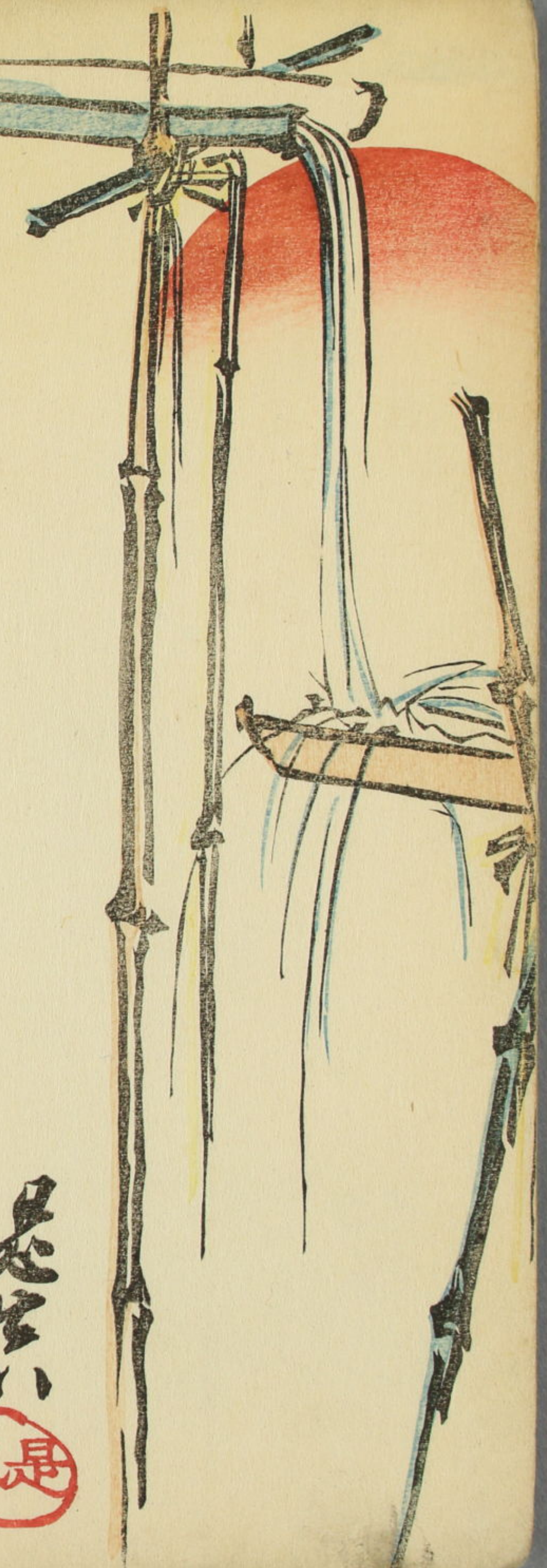
そりこ

嶽や川くさうあつ梅あま

梅 叟

波乃たつあふりあつあつ

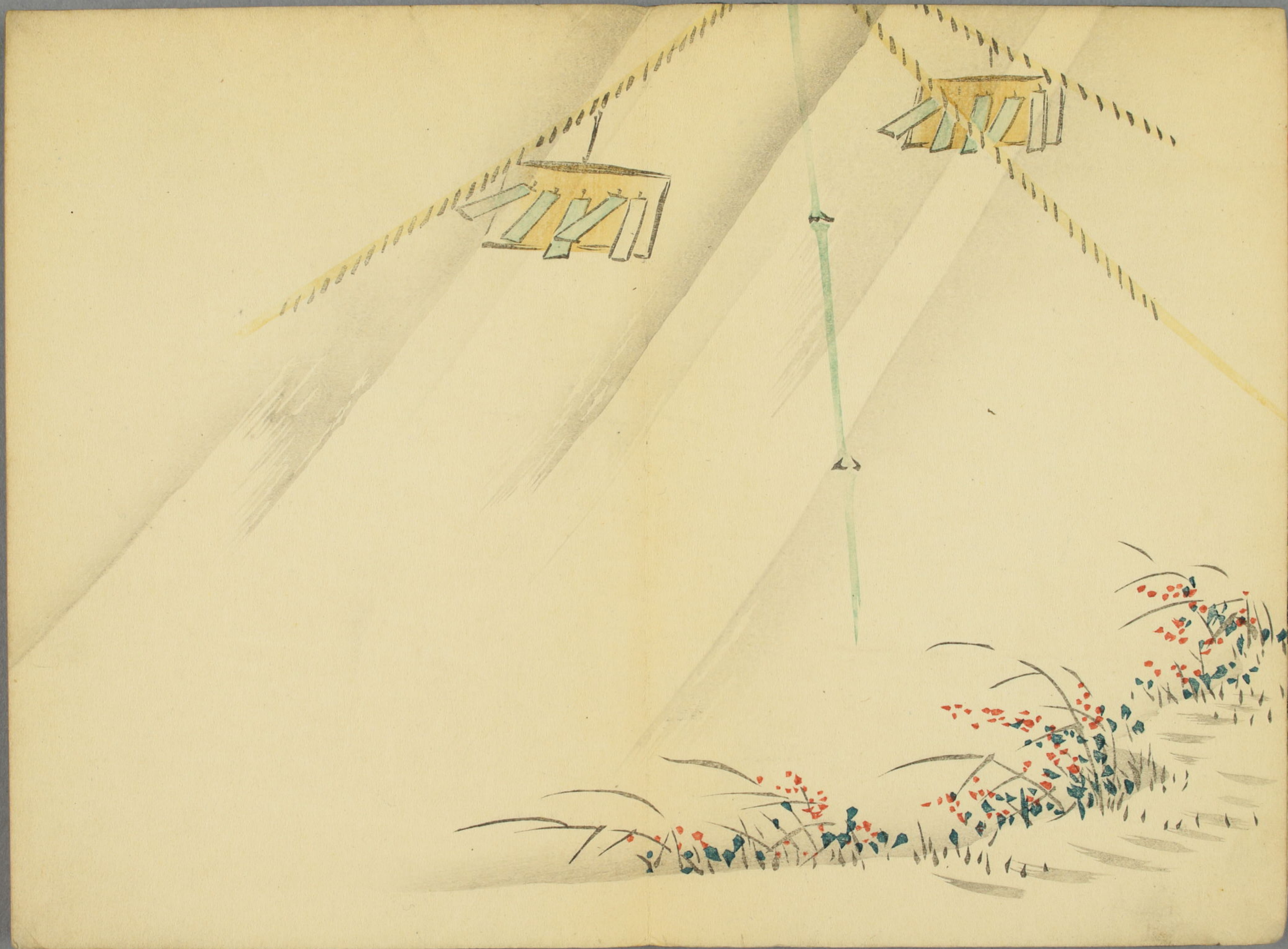
桐 山



是
 眞是

寺井 松臺
 芦船
 鶴推
 鴨遊
 里夕
 菖雨
 探翠
 岬
 女
 松芳
 茶筵
 悠平
 山ありとちりて交ぬ柳一蔭

己未乃末



那尔たのや草や地よとわねる露	春溪
行多きく宿も何〜〜秋乃月	竹雨
百々きりたや見あの子りる雪	十吾
名月乃秋うつろ〜水乃つや	お〜女
初紅葉一葉乃うらふ乾日南	手の女
朝起や眼を掃うた〜〜葉乃花	板雪
峯一ツ越〜あら〜乃井も乃花	如氷
清〜雪乃朝に届き〜〜乾乃秋	樺丈

ふさふさや ねるるを
 毎に ねるる
 老圃

つゆり ねるる
 ねるる ねるる
 合

草花や借 山名小 小塘

花や 竹の影 遠き 寿石

芒荊の 露乃 光りや 日乃 走り 南来

交る 中乃 するや 芒乃 つる 水 芦水

舟引 月見乃 先 生 芽

散る 雲乃 居て 大乃 川 雲 碓

燈籠乃 日乃 声 露 仙

早稲乃 香乃 田舟 曳之 家乃 石 湘山

帆尔 あきる 追風 乃 色 亀 雪

我庵 八乃 吹く あきる 風 芦 風

里 印乃 志ん こと 燈籠 四 絶

曇る 日尔 色乃 雨乃 茶 林

月乃 月 茶 葵

秋乃 秋乃 虫 茶 送

らうん 卓 文


白露乃 火乃 燧乃 報 謝 者 苑 裘

あ 夢乃 声乃 都 近 大 夏

人乃 月乃 江 波

十乃 赤 壺 鈴

乙 冊 乃 杖

巳未庚辰書
 春製


可由

賣人うりをうし
 うりせて惣志毎

をぬむり能尚 南志
 春をうしし水車

夕月乃出あ 梁秋
 志つこうあ柳うね

古筆乃ふささ日 旌巴
 ちらぬあさるが

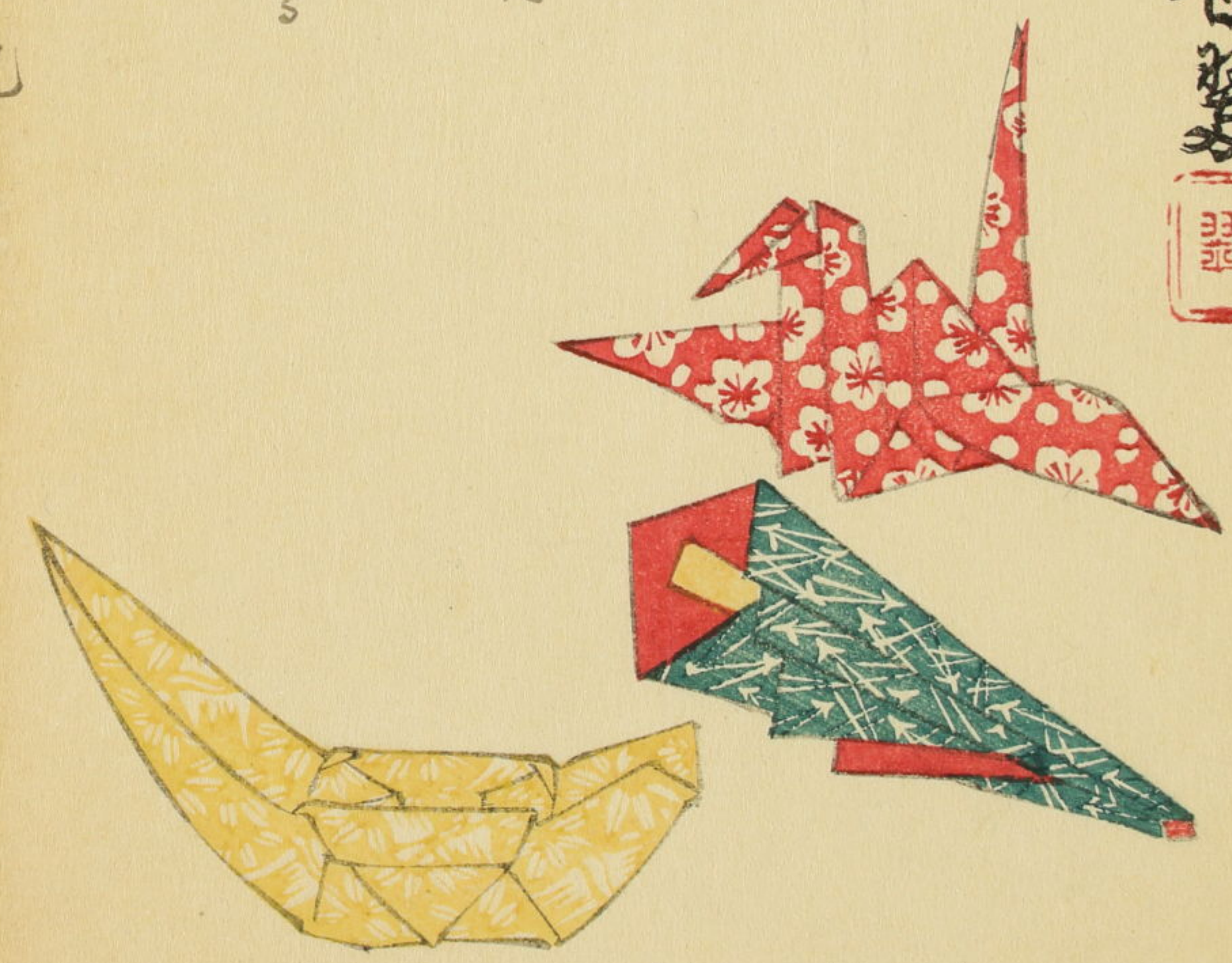
善水やあさるくし乃まひ振り 若陽
 空をかり日利ニありて善景橋 梅塘

千擧龜主人乃
 半玉を笑し天 晴江

おまへ乃艶もまほし木地炉ふち

川風千はきすはかむあなめ梅 林坡

花つしのま





梅室

人々々々々々々々々々
うきうきうきうき

山々々々々々々々々々
うきうきうきうき

うきうきうきうきうき
うきうきうきうき

うきうきうきうきうき
柳々々々

子々々々

太甫

甫翠

文麟寫





松乃雪乃紅
卓文
志たり
子乃白乃
紅乃風

ちろろるる廿乃白乃紅乃風
一節有神勢やちろろる

西窓葺

ちろろるるはちろろるるちろろるる風

玉繩

ちろろるる乃向ろろるる乃角乃風

螢窓

ちろろるるやちろろるるちろろるる和

竹甫

ちろろるる乃小貝拾ひ乃辰伊心

晴溪

まろろるる



昔の月をよみしは

つら

龍乃巻

青枝

是の昔又ちやうと

飛巻の掛け

相巻

すまうりや

くさひ出たり

松の巻也三

福巻や去年の干葉の白の朝 高好
 細打や石ふかち合ふ秋のことも 清隠
 兄合セハ笑ふやうありひを魚 伴二
 ゆく交もる園ひつきせぬ山の 波山
 ゆつろりと日あいのるひる柳が 湖抱
 巻の巻のちりくく漆の杖の事 巻橋
 巻りまハ七巻をあるさくふけ 陸古
 巻る巻や市又出てまゐりしを 乐雅
 灯うつりや遠い雨乃巻の巻不 不隠

子乃巻



翠山房 題

月と日と春と夏と
いつも皆春なりや

こころの初春や
おれり 松とん

松とん 松の春をよそ
日や春をよそめ 正月

大姉の世に此の春の
春の世に此の春の 良人

春の世に此の春の
春の世に此の春の 八番

春の世に此の春の
春の世に此の春の 白朗

春の世に此の春の
春の世に此の春の 春色

春の世に此の春の
春の世に此の春の 于里

春の世に此の春の
春の世に此の春の 有芳

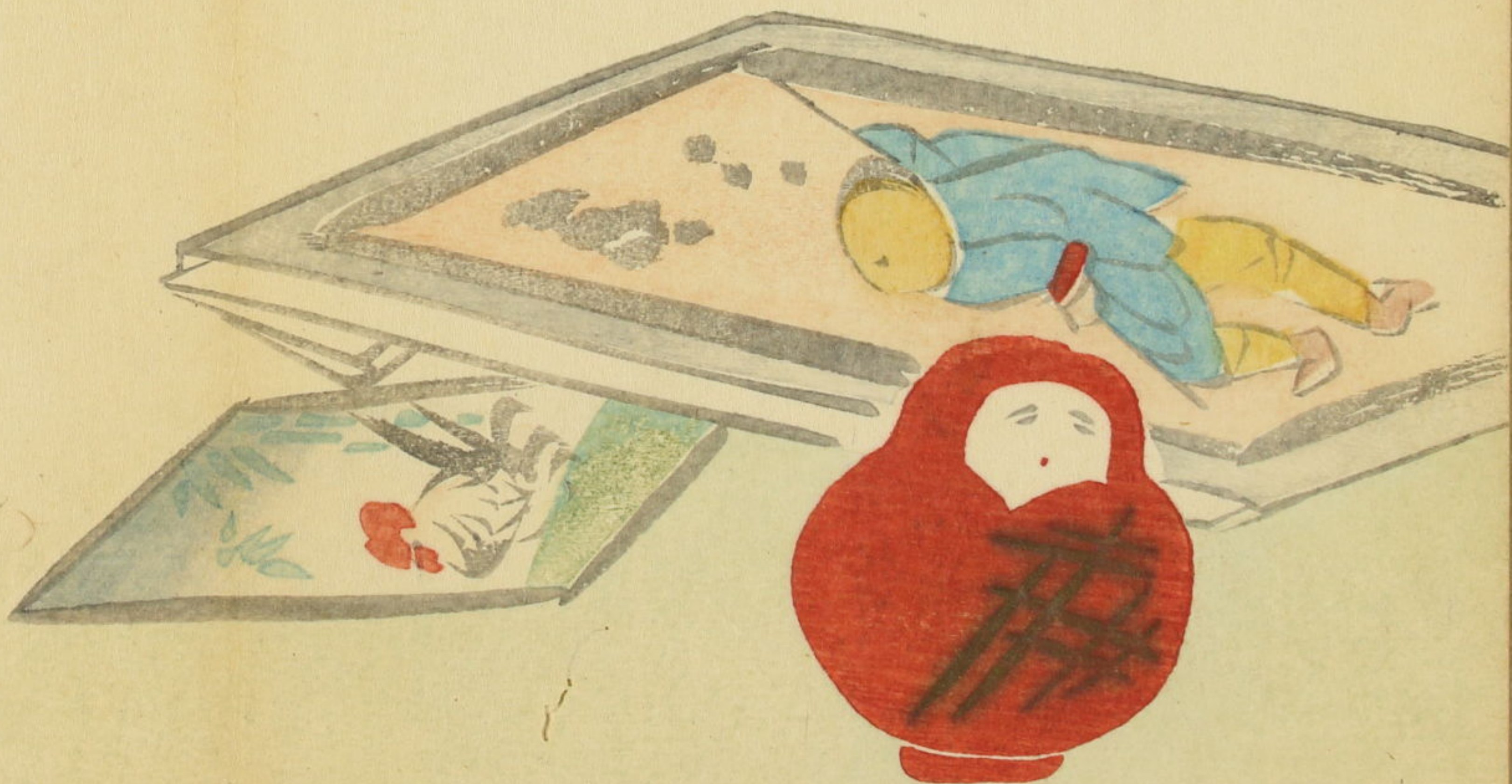
春の世に此の春の
春の世に此の春の 志枝

春の世に此の春の
春の世に此の春の 竹菊

春の世に此の春の
春の世に此の春の 晴溪

春の世に此の春の
春の世に此の春の 玉洞

春の世に此の春の
春の世に此の春の 素秋更





安穩の世や 松のたもと 有交
 常や 梅を 多し 雲の 海川 白如 晴美
 葉の 葉の いふ 法も 多拜や 朝き くらん 東延
 恒は も ある や 花 多の 赤梅 日和 香山
 春の 月 田 毎く や 水 清し 二鴻
 初雪 や 花 多し 海を くらき 多知て 鳥園
 ろ 申 杖 不 定 多 身 了 唐 多 や 給 仕 先 翠山

唐申の妻

秋喜



一とせ乃

左南

曠をわきまを

まのからあ

書名をぬ

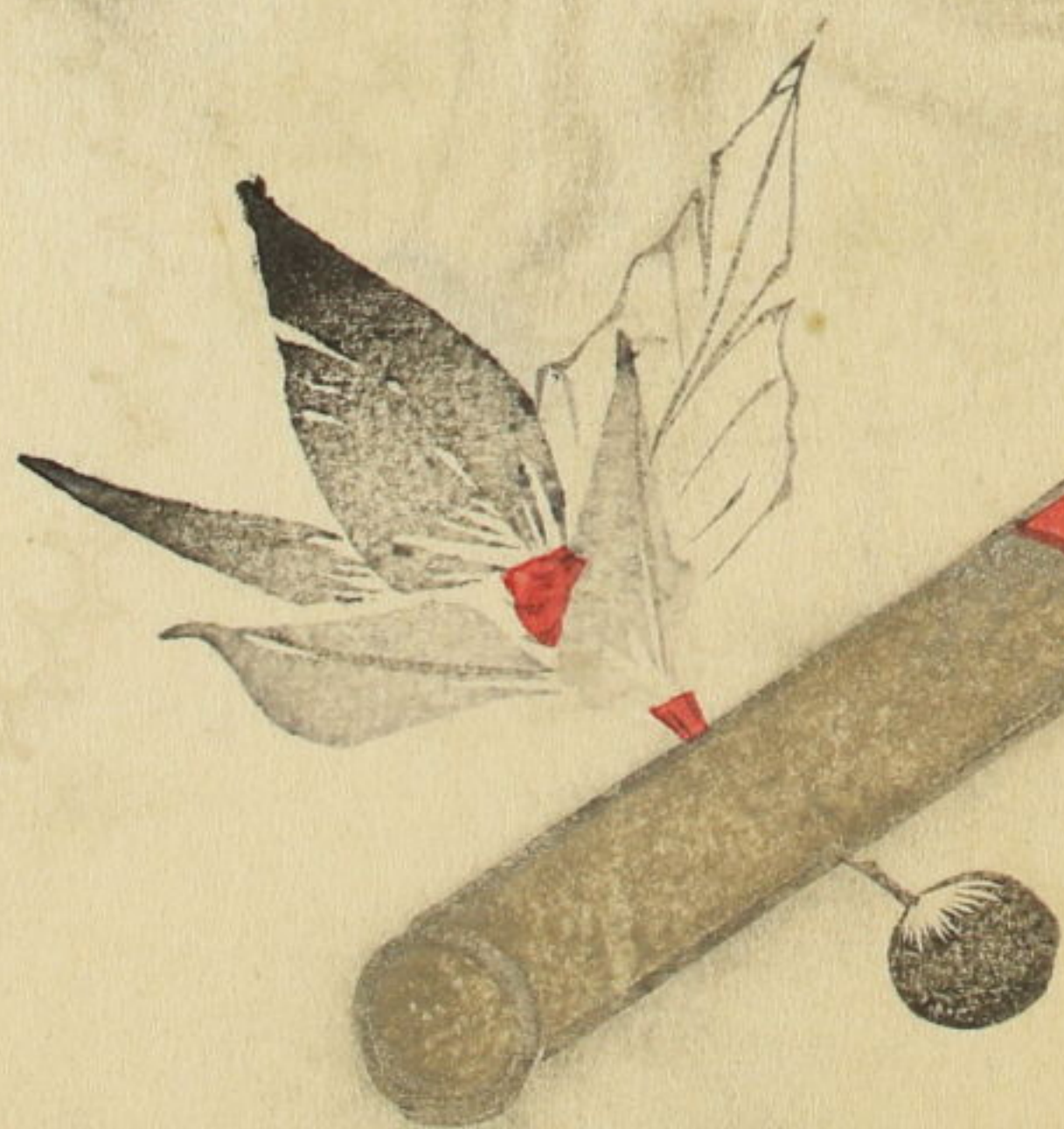
起案

裡もあらせ

新明り

又う代やあ夷く砂の果も新し

广弥



水引乃むをひ目かじし梅のを 章甫
 うくはをの歌くやの巻乃下流を 李璠
 能ひやをま花ハ赤く福を福壽科 北台
 あうふれく、唯ふはる並ふ難きく、 曾外
 いふはるを、整はき出して、饒り海光 可由

啼くあゝ木兔もかくれて、初日歌 号庭
 かち栗や味はちからのあり阿万る 希玄
 元日や時うつともんぬぬ空 素傑
 高きあつれう福通ふ山家この歌 趙甫
 いきくう歌歌や年をり福苗 西菴
 多希ふと山内俣の志ある年酒を 素海
 年礼や来きと世の志をみしり 山水

茶の味も苦味休みや所をの歌 晴江
 多希とて庭松うらまはる福の来 林坡

己出はしりて 芳亭堂社



此のあけおはるる
 福妻の子に
 惜

うるまのまわ
 枝の
 惜

ちのむりね
 三つ
 北台

山松の
 や
 信年

草の
 白
 白
 白

巳未の

巴未孟春作雪岳



羽根のや袖の

月川

ゆきなほひは

しらふは

那玉

一まんちやみん

おのゝりら

松葉

うらな中ぬのむ

ふこまきこまき

香光

んぬももも日のも

深きまの十

文英

ぬれしり

明乎の清

吐雲

んぬももも

うらなや切

孤柳

はるひふすむ

人生

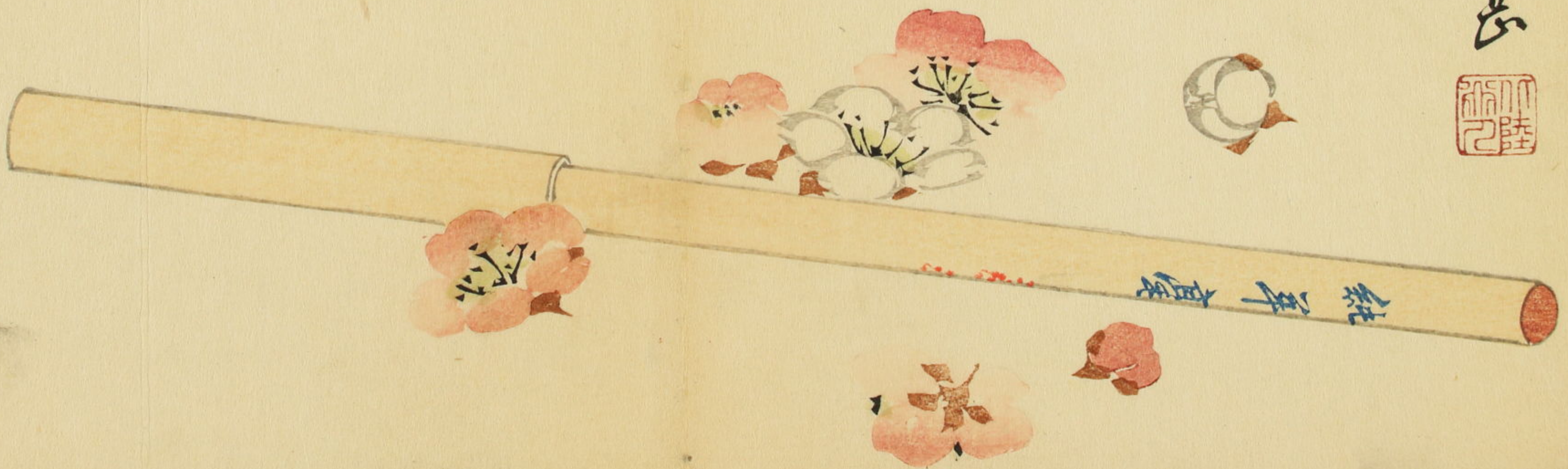
さなやせん

豆生

らむのや

美田

鷲のたもと





晴水



人自中

卓丈

此の世無きこと
たつたつ海老

西月や晴るもあはれなるもたたり
門本や東表あき枝くらり
千ふらふよあはれなるもあはれ
ゆきやふらふあはれなるもあはれ
はるるなるもあはれなるもあはれ
そはるるなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ

素僊 芳旭 唐節 女 西雅 五午

此の世無きこと
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ

霞黛 大李園 愷致 梅叟

あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ
あはれなるもあはれなるもあはれ

道玉 奇如 晴

年一程やん
あはれなるもあはれなるもあはれ

ト



一
 葉風
 拾山

一
 葉風
 拾山
 一
 葉風
 拾山
 一
 葉風
 拾山

雨の中を歩けり
 ちりあがり秋の花
 阜夫

多々中何を新巻も母一り集
 多梅中ちりい合せり一太酒を
 稲葉中豊り多きもいりりりり
 出りりりりりりりりりりりり
 秋風中ちりいりりりりりりり

晴溪
 玉女
 一太高
 晴溪
 芳

少きるをけり夫毎り深みりり
 多りおあり忘れりりりりりりり
 六月りりりりりりりりりりり
 出りりりりりりりりりりりり
 新巻中ちりいりりりりりりり

美晴
 音月
 眠考
 素原
 拍葉

あ仙中ちりいりりりりりりり
 多りりりりりりりりりりりり

無味
 旭枝

梅自昔りりりりりりりりりりり
 梅柳りりりりりりりりりりり

無味
 五十鈴

十重りりりりりりりりりりり
 雨招りりりりりりりりりりり
 落りりりりりりりりりりりり
 二月りりりりりりりりりりり
 未刻晴りりりりりりりりりりり

喜回
 晴溪
 笑晴
 喜晴
 非南

由りりりりりりりりりりり





無平

源平社表の

ふとまのこや
月海



きき雪ふ柳おちみきたゆもたり
みんあふ深ゆや子乃日の鬘松
海士の家乃煙うかすぬ梅の志
若らるるやみく裸あふ雪うらうら
まき風や法くつくまき虫いろ
さるおききさるさるくう向河岸

三 鈴
其 雪
寒 三
西 岱
岬
宮浦
葛 雨

くくは千の志たり白あふ小崎ゆ
たをさるるまき松北あふ泥の産
四月や目まろく雪うら日の早き
積雪や雪おちたきくう船子の巻
山里やくくあ抱あむ梅乃志

葉 庭
既 月
松 芽
捺 琴
季 節

己未乃志

雪智社

佃を治すは良
 集雄
 印
 印

温るの 湯くこりし折々
 西巻
 善治や古井のあまの
 素

早き早きとくけいとや
 眉
 子英

又ふらとゆくとおもはれ
 子英

いふやまのふしはあつて 歌の鼓
 鳥かきむ そのねをよみあは
 鳥かきむ そのねをよみあは
 鳥かきむ そのねをよみあは
 鳥かきむ そのねをよみあは

そむののみあはれとて
 梅乃
 又
 舟

子子のたま
 善治の
 挿芳遠



文雄
[Red Seal]

梅宝

日向中おあはれ

名々々々々
柳介

鶴ゆつゝ万葉
九起

さつゝおんち
つ申

白梅一十里のさき

又白梅
燕巣

さらさらや葉気さる
北丈

はつ夢うやあやう
鳴中

新ら舟一
美

梅つや梅は
山

いゝもあはれ
坊

よあらくや梅
宝吐

山多しそなよめはむをり月
仙長

かたあやつけなまはる岬のさき
玉簪

あつゝも数なる物とるる恋文
た結





玉英齋
曾齋

草のついでに...
 中めやしとくろまゐるあつし世に心毒
 ゆききくけけと延びあはれや若きには
 ちまや中あし白く若くあつた
 甲斐のしし...
 隙あつし...
 うくは...
 来白し...
 ちんちん...
 初ま...
 心...
 平...
 美...
 子...
 猶...
 雜...
 本...
 塔...
 侍...
 以...
 門...
 年...
 梅...
 法...
 字...

園々春

全全全全全全
 雨千雨 柳香 里柳 福女 柳枝 宗朴 茵荷 呂舟 琴路 楓葉 松門 潤乎 燕泉 静亭 竹苞 鳳亭 恭堂 皇居 蘭坡 朴恬 柳弱 其友 古來



梅の字万たり 梅通

上てわ梅忌の種

梅りあ梅くうり 梅后

むきくあし空 一梅

まくり弓さあ

まらあふのあ梅 産梅

まらあふの巨梅のあ

め梅の梅たり手 梅裡

梅やあて 梅純

梅のあ梅うし吉

三年梅わか梅つ也 梅吉

さう梅のさあや 公成

女のあ梅年 梅糸

何とあああもの 喜家

めさ梅し 梅きの昆亭

朝りあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅のあ梅ああもの 梅屋

梅江

山崎の巻

葎新道

翁美多郎

孝順

粒 三々 松色 可成片

七郎 父 可 義 信 平



是も亦あやしむもぬとよはなめて 暮雨
 とぞいふ名もあふきぬとては 里夕
 万山也中家之りや記のくはく 松亭
 何れも亦や記のふふふ 梅景
 橋はくも若くもわく記 幾松
 若くも亦人々 松鶴のまの 松交
 若くも亦乃やうた 松ふらり 松柳
 さや川中 松竹梅のまの 松月 松盛
 若くも亦もももももももも 松中 松年

申

嬉しうに子夜も清川

草蒲酒

松坂

鬼の笑点皆に福作や

まろ疋

金枝

羨り

活ひ多持 穢初ふ

應神も退治



